



白倉祭りばやし

天保の時代に始まったと言われる白倉祭りばやしは、合わせ太鼓と笛の音にあわせて、「おかめ」と「ひょっとこ」がつゆはらいをしながら踊ります。見ている人も一緒に踊りたくなるような楽しくて面白いお囃子です。長い間途絶えていましたが、約50年ほど前に祭りばやしとして取り入れ、今に受け継がれています。毎年12月14日の諏訪神社の例大祭に奉納されます。また、産業祭等にも参加し皆を楽しませてくれます。

北遠の首長インタビュー④

内山龍山村長にきく

シリーズ四回目の首長イ

ンタビューは、龍山村の内山村長さん。昭和十九年十二月に発生した東南海地震、当時名古屋市内に住んでいた内山村長さんは、小学校の二年生。また、名古屋大空襲にも見舞われました。この二度の貴重な体験があったからこそ「現在の自分がある」と思い、地震と空襲で住居を失い名古屋市内から龍山村にお父さんを残して家族が転居せざるを得なかったことなど、自らの人生を振り返ってみると、まさしく「人生とは筋書きのないドラマだ」とお話になりました。

広報委員 二十世紀を振り返ってみずと経済や産業など素晴らしい発展を遂げた世紀

でしたが、村長さん自身の心の思い出は。

村長 昭和十九年当時、名古屋市の道徳国民学校二年生でした。熱田神宮まで歩いていける距離の名古屋市南区に住んでいました。十二月に東南海地震が発生して、被害に遭いました。その上、一週間もしないうちに名古屋市内が米軍の空襲を受けました。子供ながらに焼夷弾が花火のように綺麗だったことが脳裏に残っています。

この地震と空襲を体験し、家を失い、仕事の関係で父を名古屋に残して、家族で龍山村に転居しました。今から振り返ってみると龍山村の十八代村長になり、今年創立百周年を迎えることが出来たことなど、地震と空襲が自分の人生の中で、大きな転機を与えた出来事と思っています。

広報委員 地震といえば静岡県でも東南海地震がいつ発生してもおかしくないといわれていますが。

村長 海の津波が怖いといわれる津波情報も必ず放送されませんが、山津波も大きな災害をもたらすと思っています。山の津波対策を講じていくべきかと思っています。昔の人は上(山)を見て逃げろといっていました。住民の皆さんには「自らの命は自分で守る」という姿勢が大切だと指導しています。地震発生から五分は、どんなことがあってもだれも助けには来てくれません。この五分の間にひとり一人自らをどう守るかが大切だと思っています。

また、阪神・淡路大震災の経験から、夜間に地震が起きた場合、寝室の家具の倒壊によって被害がより一層大きくなったとのデータが出ています。こういった状況からなるべく寝室に家具を置かないように地域防災でも指導し、取り組んでいます。

広報委員 全国的な傾向として教育現場が大きな曲がり角を渡っています。



取材風景

村長 村自身、六十五歳になった今も目の中に浮かぶのが名古屋港に沈む夕日です。子供ながらに夕日の鮮やかな赤が心の奥に響くものを感じ、なんて綺麗だと思いつめていました。夕日の色が鮮やかで真っ赤だったこと。太陽の大きさがなんでこんなに大きいのか不思議に思ったものです。こうした経験から龍山中学校二年生全員を「心に何かを感じて欲しい。日本もいつか大きな地震」と北海道雨竜町へ三泊四日の研修旅行を平成九年から毎年実施しています。十四歳ぐらいの年齢ですと一番多感な時期で、ソフトな感

性を持ち始めた頃ですから、自分の将来という大義感ですが、自分自身を見つめ直し、合わせて家族を、そして龍山村を見直して欲しいと思っています。参加された生徒さんや家族の皆さんから「家族のコミュニケーションが図れるようになった」というお声を頂いて、嬉しく思っています。

広報委員 村の課題とビジョンについては。

村長 十二年度に「第四次総合開発計画」を策定しましたが、そのもととなったのが「はつとびあたつやま活性化推進構想」

です。この構想策定は住民の皆さんの所に出掛けて行って龍山村をどうするのか、コンサルタントに任せない手作りの構想といたしました。基本は、そこに住んでいる人たちが心安らぐ空間を創造すること、"ほっとする自然、ほっとする暮らし、ほっとする時"がコンセプト。まちづくりの基本は地域経済の活性化、産業の振興、合わせて安心して暮らすことのできる条件整備だと思っています。



水道ろ過施設

現在、このほっとする自然や暮らし、時の基盤になる事業は、一軒一軒軒先まで道路



暮らしやすい生活のための軒先道路

をつくること。雨が降っても濁らない水が飲めること。合併処理浄化槽によるトイレの水洗化の推進です。トイレの水洗化には道路と水が必要のため、この三点セットで整備を進めていきたいと思っています。それぞれの進捗状況は道路が百三十路線のうち約半分、水が七五%、水洗化率が四〇%に達しており、これから積極的に事業の進捗を図っていきたくと思っています。

現在はお茶の種類の選択なども進めています。なんとか農業生産基盤の強化につなげたいと思っています。また、お隣様で好評なのが、トロン温泉。村民の利用者はもとより村外から訪れるお客さんも多く、好評を頂いています。現在では一ヶ月平均で一千人を越えるお客様があり、有難いと思っています。

広報委員 話がかわりますが、健康管理についてお話し下さい。村長 健康管理は寝ること。睡眠不足が体を壊すもどと、思っています。そして腹八分目の食事。それと朝の散歩。午前六時には起床して、家の付近を三十分ほどかけて朝食前に散歩するのが日課になっています。「体調が悪いとまわりにも影響しますし、良い仕事が出来ません。職員にも健康管理には十分注意をするように」と指示しています。財政状況が厳しい折、これからは「工夫も二工夫もしないと効率的な事業が推進できません。」

広報委員 村長さんの好きな言葉はなんですか。それと最後に建設業界にアドバイスをお願いします。村長 自分自身の人生を振り返ってみると地震と空襲という貴重な体験が「人生とは筋書きのないドラマである」を生んでいると思っています。人生のドラマは、誰もが主人公になれるし、誰もが創り上げていくことができるといふことです。これから自分の人生どう展開していくか分かりませんが、筋書きのないドラマを展開していくと、思っています。



トロン温泉

実は、この言葉は、西遠女子学園の理事長の岡本富郎先生から届いた年賀状から頂きました。二十五年ぐら前に下平山小学校跡地などに学園の一部を移転というお話でお付き合いをさせて頂きました。それがきっかけです。それと岡本先生からは、「黄金の銀」という本を頂きました。西遠女子学園創立七十年記念誌です。その中に、岡本先生の座右の銘として次の歌がありました。「幼初より営み作る殿堂に われも黄金の銀」

「黄金の銀」の気持を持って、黄金の銀の精神を忘れず、色々な技術を勉強し、自社でなければできないという自負心と誇りを持って仕事をしたいと思っています。

広報委員 長時間お話を有難う御座いました。

事務局だより

◎七月からの動き

七月

二日 入職促進懇談会
安全祈願祭：秋葉
神社にて

五日 安全パトロール
安全指導員現場見
学会

十一日 広報誌六九号発行
土木技術講習会・
主任技術者表彰

十五日 静岡空港・エコパ
施設見学
農林土木技術講習
会・主任技術者表
彰

二十三日 参議院選・知事選
役員と土木事務所
幹部職員と懇談

二十九日 安全パトロール
技士会代議員会
広報委員会
管内道路除草奉仕
作業（一七九名参
加）

三十一日 建設労働者実態調
査取りまとめ結果
の提出

九月 五日 技士会代議員会・
技術相談会
広報取材：鹿山村

五日 広報取材：鹿山村

六日 安全パトロール
創立五〇周年準備
委員会

十二日 災害協定：浜松工
事事務所打合わせ
適正取引講習会
可美運動公園

十三日 天竜協会の敬老会
技士会技術発表会
・安全講習会

十四日 天竜協会の敬老会
技士会技術発表会
・安全講習会

十九日 天竜協会の敬老会
技士会技術発表会
・安全講習会

十月 ◎（今後の予定）
二日 第二回役員会開催
四日 安全パトロール

ほろろおたけやま産業祭

龍山の産業を広く知ってもらうために、昭和五十四年度の商工まつりから始まり、以後村民まつりを経て、現在の「ほろろおたけやま産業祭」が行われています。近年は十一月の第二日曜日（本年は十一月十一日）に総合グラウンドで開催され、村の特産品の販売や楽しいショーが繰り広げられます。そのほかにも雲折太鼓や白倉ばやしなど文化保存団体の出演や村内外の各種交流団体による出店、また子供向けには、大型遊具や各種アトラクションが用意され、この日を楽しくに村外からも訪れる方が年々増えています。

地球にやさしいリサイクル!!

阿多古建設事業協同組合では廃棄物処理施設の天竜草木リサイクルセンターの運営を8月1日から開始しました。この施設は一般廃棄物（河川堤防、道路脇、家庭などから出された刈草等）と産業廃棄物（木くず、根株等）を焼却せずに、危険な薬物を使うことなく、破砕機（タブグラインダー）でチップ化し、土壌改良剤として茶園などに無料で還元しております。

処理料金表

車種	軽トラ	日本車	2トン	ユニック 21トン 21トン 21トン	ユニック 21トン 21トン 21トン	ユニック 41トン 41トン 41トン	8トン 以上
種類	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り	木くず 草刈り 草刈り
料金	2,000	3,000	7,000	9,000	13,000	15,000	35,000
根株	10,000	15,000	25,000	30,000	40,000	45,000	75,000

詳細および御不明な点は、組合事務所にお問い合わせください。

天竜市青谷1-8-4番地
阿多古建設事業協同組合
電話 0539-26-3052
FAX 0539-25-2723

リレー「安全パト」①
私の安全パトロールの歩み

主任安全指導員 坂松 敬典

日頃、協会の皆様方には労働安全活動に格別のご配慮をいただき、厚く感謝する次第であります。

私が、建設防の安全指導員の担当になり、はやく十四年になりました。当時は寺田工務店の社長の富一さんが主任安全指導員をしており、何も分からない自分分を指導してもらったことを記憶しております。当時は、協会員だけの自主パトロールであり、現場での指導も同業者同志ということで遠慮もありました。その頃は時代の雰囲気も今と違いのんびりしており、パトロール終了後には、反省会を兼ねて暇

を潤して帰ったこともあり懐かしく思えます。その後、時代も変わり、四年ほど前に立て続けに死亡事故が発生したり、現場での事故撲滅のため当時の天竜土木事務所が技術指導もあり、労働者、発注事業所との合同パトロール（労働者、土木、農林、市町村、安全指導員）となりました。お昼の食事も自前でした。それが法文という形となりました。

何時の時代でもそうかと思いますが、よその人に現場を見られるということは「けむたい」存在のように感じられます。しかし、それぞれの企業が、ひとたび重大災害を引き起こせば、労働者、警察署、発注事業所、の指導を受けるだけでなく、遺族との補償問題、指名停止等々、その企業の存続にもかかわる問題になると思えます。私たち安全指導員は皆さんのためと思い、

ある程度厳しくパトロールしているつもりです。過去にはパトロールの情報をキャッチすると現場を休んだ事業所もありました。その時連れで現場を休むのではなく、だれに何時見られても指摘を受けることのない安全対策を常日頃から「真剣」に事業所が一丸となって取り組んでいただきたいと思います。

今後、建設業界は公共事業費削減で経営自体が大変になると思いますが、大手ゼネコンなみの安全対策に取り組み、「安全第一」を念頭に安全に対する意識を高めていただきたいと思います。最後に、文章が乱雑になりましたが、皆様の安全と企業の発展をお祈りします。

